

- 気候変動への適応行動（適応事業の実施）は、緩和行動と異なり、その効果は個別的・地域的であり、緩和行動における温室効果ガス排出削減の達成のような一定の枠組みで測ることはできない。
- 適応事業の実施効果を測るには、個別事業ごとの成果を評価するのではなく、途上国自らが掲げる**国家計画（NAPAなど）**や、国連の**持続可能な開発目標（SDGs）**など、途上国にとり重要な開発戦略の目標と照らし合わせ、適応実施が、それらの目標にいかに関与したかを計測する指標を設定することが効果的。

持続可能な開発目標（SDGs）

ミレニアム開発目標（MDGs）に代わり、2015年9月に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において中核をなす新たな目標。

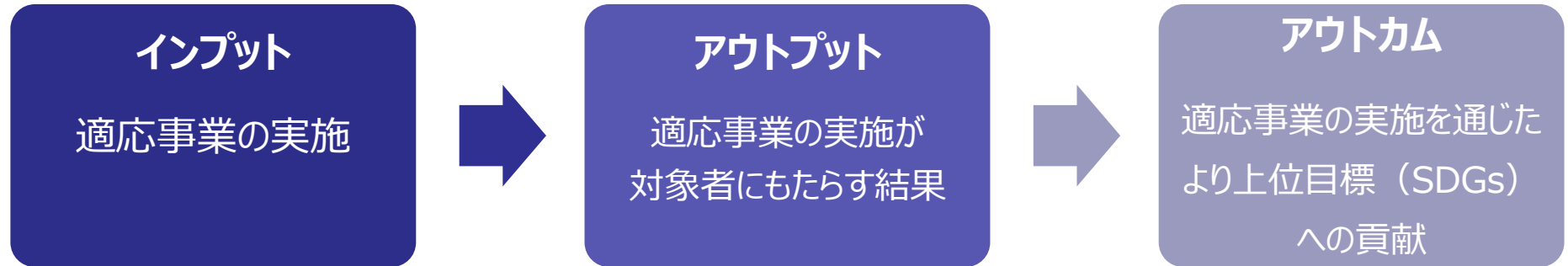
SDGsは、17ゴール・169ターゲットから成り、途上国のみならず、先進国も含む世界全体の経済・社会のあり方を対象としている。

持続可能な開発目標 (SDGs) 17ゴール

<p>1 貧困をなくそう</p> 	<p>貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆるかたちの貧困を終わらせる</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、栄養を改善し、持続可能な農業をすすめる</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人の健康な生活を確保し、福祉を推進する</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>質の高い教育をみんなに 全ての人への衡平な質の高い教育と生涯学習の機会を提供する</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>ジェンダー平等を実現しよう 世界中で女性と少女が力をつけ、ジェンダー平等を実現する</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 	<p>安全な水とトイレを世界中に 世界中に全ての人に持続可能な水の使用と衛生設備（トイレ、下水道など）を保障する</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>エネルギーをみんなにそしてクリーンに 全ての人々が、安く安定的に発電してくれる、持続可能なエネルギー（太陽光、風力などの再生可能エネルギー）が使えるようにする</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>働きがいも 経済成長も みんなが参加できる持続可能な経済成長を促進し、全ての人々が職をもち、働きがいのある人間らしい仕事ができるようにする</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>産業と技術革新の基盤をつくろう 災害に強いインフラをつくり、みんなが参加できる持続可能な産業化を進め、新しい技術を生み出しやすくする</p>
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p>人や国の不平等をなくそう 国内及び国家間の格差と不平等を減少させる</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>住み続けられるまちづくりを まちや人びとが住んでいるところを、だれもが受け入れられ、安全で、災害に強く、持続可能な場所にする。</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>つくる責任 使う責任 生産と消費のパターンを持続可能なものにすることを促進する</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>気候変動に具体的な対策を 気候変動とその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p>海の豊かさを守ろう 海と海洋資源を守り、持続可能な利用を促進する</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> 	<p>陸の豊かさを守ろう 陸の生態系を保護し、持続可能な利用を促進し、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地の劣化、生物多様性の喪失を止める</p>
<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	<p>平和と公正をすべての人に 平和的で、誰一人のけ者にされない社会と、すべての人が法律に基づいた手続きをとれるようにする。あらゆるレベルで効率的で説明責任ある能力の高い行政を実現する</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> 	<p>パートナーシップで目標を達成しよう 目標達成のために必要な行動を強化し、持続可能な開発に向けて世界の国々が協力する</p>		

出所 : <http://www.ugokuugokasu.jp/whatwedo/sdgs>

適応行動への貢献・影響の評価手法の検討例：SDGs指標を引用する場合



事例 ①	インプット 適応事業の実施	アウトプット 適応事業の実施が対象者にもたらす結果	アウトカム 適応事業の実施を通じたより上位目標（SDGs）への貢献
	集中豪雨による洪水や土石流、地滑りや崩壊などの自然災害に際する早期警戒システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・危険斜面箇所の把握 ・ハザードマップの提供 ・災害情報システムの設置 ・斜面对策実施済み道路の延長 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災による死亡者数の減少 ・被災による経済損失の減少
事例 ②	土壌改質剤を用いた、オーガニック製品の原材料の栽培による農地・森林の回復	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料となる農作物量の増加 ・面積当たりの収穫量の増加 ・植林面積の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次産業従事者の平均所得の向上 ・持続可能な農地面積の拡大

事例①に基づく場合

SDGs 目標9「災害に強いインフラ作り」の達成に貢献

SDGs 目標13「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策」の達成に貢献

	インプット (適応事業の実施)		アウトプット (実施が対象者にもたらす結果)		アウトカム (より上位目標への貢献)	
評価 指標	画像解析による危険地形の抽出実施面積	国土面積の5%	①危険斜面箇所 of 把握 ②ハザードマップ提供数	①6か所 ②国土面積の5%	- 被災による死亡者数	1,330人 →931人
	災害警報システムの設置	国土面積の5%	①災害警報システムのカバーする面積 ②災害警報システムのカバーする地域の居住者数	①国土面積の5% ②事業実施地域の80%	- 被災による経済損失	2,750百万ドル →1,925百万ドル
	リスク評価を受けた地域の斜面对策工事	抽出危険地形箇所 of 20%	斜面对策工事実施済道路総延長	工事多実施地域の主要国道・省道の20%	- 被災者数	7.08万人→4.96万人